

高知地学研究会会報

第36号

平成21年
7月25日発行

梅雨明けとともにまた、高知の暑い夏は本番！まっしぐら。夏休みを迎えた子どもたちは、日に焼けて川遊びに夢中！なんてこともなく、ゲームにTV、冷たいクーラーといったところでしょうか？よさこいにかける情熱だけは熱いけれど、子どもを取り巻く現状の変化にちょっぴり寂しい気がするのは私だけ？子どもも大人もゆっくりと夏が楽しめますように。この夏、高知地学研究会は、楽しい企画をお届けします。

夏休みわくわく教室

地球を知る

とき 8月2日(日) 10:00~12:00

ところ 高知大学理学部 1号館 2F 学生実験室(201教室)

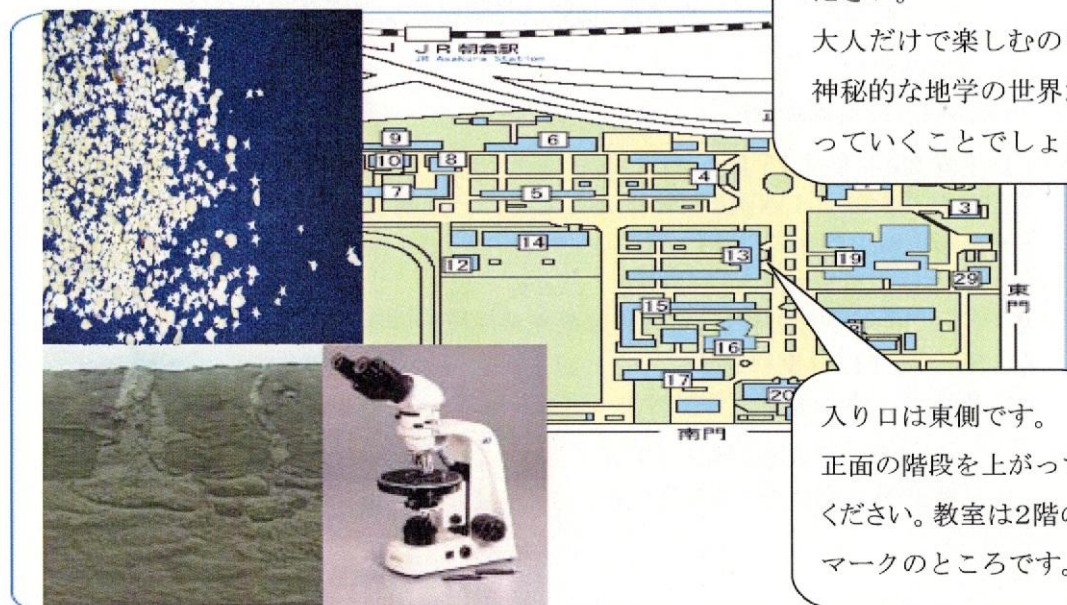
参加料 ¥300 (実験のおみやげあります。)

募集人数 20名 (先着順です。)

夏休みです。ぜひお子さんやお孫さんを連れてご参加ください。

大人だけで楽しむのもOK！神秘的な地学の世界が広がっていくことでしょう。

入り口は東側です。正面の階段を上がってください。教室は2階のマークのところです。



😊 **実験は4つあります。 <それぞれ30分程度>**

- ① 「星の砂」って何だろう？ (微化石の観察)
- ② 岩石って光を通すの？ (偏光顕微鏡による岩石薄片の観察)
- ③ エキジョーカーで遊ぼう！ (地震による液状化現象の実験)
- ④ 山が飛び出すめがね？ (地形の立体視の実習)

なお、当日は、午前中は会員対象に実習を行います。午後2時から4時まで一般子ども向けに同じ内容で実習をする予定です。スタッフとして参加していただける方を募集します。上記連絡先までご一報ください。

● 2009年度総会報告 ●

去る5月31日(日)13:00~高知大学1号館2F 学生実験室(201番教室)にて総会が行われました。参加者は若干少なく18名でしたが、久しぶりに前会長の出席もあり、お元気そうな姿に、会員一同嬉しく思ったことでした。改装された高知大学は、明るく、よい環境になっておりました。以下、総会のご報告です。

◇2008(平成20)年度活動報告より◇

平成20年度総会 平成20年4月27日(日) 高知大学1号館地質学講義室

講演会「汽水性二枚貝類の過去と現在」

高知大学理学部理学科 地球科学講座教授 近藤康生氏

ジオパーク緊急報告会

第二回茶話会(会員親睦会)

巡検 1) 平成20年9月15日(月)

第26回:「大割引!四国のでっぺんこじゃんと満喫ツアー」

— 鳥形山周辺の地質(鳥形山石灰採掘場・大引割小引割)と森林植物公園 —

案内者:高知大学理学部教授 吉倉紳一氏

2) 平成20年2月1日(日)(高知県高等学校教育研究会理科部会との共催)

第27回:第1回「室戸ジオパーク」認定記念巡検

案内者:高知大学理学部教授 吉倉紳一氏

会報発行 第34号:平成20年9月1日

第35号:平成20年5月5日

◇2008（平成20）年度会計報告および監査報告◇

上のことについては、以下の通り承認されました。

2008(平成20)年度会計報告

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

会計 岡村 恵子

収入の部				支出の部	
前年度繰越			¥196,646	会報作成(33号・34号)	¥36,000
会費	正会員	¥2000×35名	¥70,000	会報発送(メール便)	¥16,080
	家族会員	¥3000×5家族	¥15,000	文具(封筒・領収証他)	¥8,173
	大学生・院生会員	¥1000×1名	¥1,000		
	18年度正会員	¥2000×2名	¥4,000		
	19年度正会員	¥2000×3名	¥6,000		
	次年度正会員	¥2000×3名	¥6,000		
	22年度正会員	¥2000×2名	¥4,000	計	¥60,253
	23年度正会員	¥2000×1名	¥2,000	次年度繰越	¥244,393
収入計			¥304,646	支出計	¥304,646

繰越金内訳

現金 ¥182,993
徳島貯金センター ¥61,400
合計 ¥244,393

会計監査報告

会計に関する証書類について慎重かつ厳正に監査いたしましたところ、帳簿の記載は正確で、領収書類についても適切に保存されており、適正かつ正確な執行であったことを認めます。

2009年4月5日

会計監査

佐藤 慎二

曾我 和正



◇役員改選◇

平成 21 年度新役員は、以下のように決定いたしました。昨年に引き続き、同じメンバーになりますが、どうかよろしく願いいたします。また、お手伝いしていただけるかたがいらっしゃいましたら、ぜひ、お声がけ下さい。

会 長	南 寿宏
副 会 長	竹島 洋文
運営委員	森岡 美和
会 計	岡村 恵子
会計監査	佐藤 慎二・曾我正和
顧 問	吉倉 紳一

2009（平成21）年度活動計画

8 月 2 日（日） 地球を知る夏休み子ども実験室：高知大学

10 月 10 日（土）～ 11 日（日） 第 2 回「室戸ジオパーク」巡検

その他（巡検アンケートの報告などがありました。 P 5 ・ 6 参照）

● 講 演 会 ●

『ランカウイ島（マレーシア）ジオパークを訪ねて』 高知大学理学部 吉倉 紳一教授
総会後の講演は、相変わらず熱心な会員さんのキラキラした瞳が集中していました。吉倉先生にランカウイ島のスライドを見せていただきながら、感嘆の声が沸きあがっておりしました。講演後の質問ではいくらで行けますか？など、具体的に視察に行く予定を立てていらっしゃるかたも。

室戸を始め、日本のジオパークを盛り上げていく上でも、外国のジオパークはどうなのか、気になるところでしたが、まだまだ、課題の多いことに気づかされました。

また、第 3 回目となりました茶話会も、和気藹々と進み、地学に対する思いの共有や、私的な話題公開で盛り上がりました。以上、ご報告申し上げます。

（森岡 美和）

室戸ジオパークについてのアンケート集計

前回の巡検で回収したアンケートのまとめを報告させていただきました。参加できなかった方も、会報にて、ご覧下さい。なお、アンケート回答者は、12名です。

1. 年齢（20歳未満 1名・40～60歳 4名・60歳以上 6名・不明 1名）
2. 室戸ジオパークの取り組みについて
 - ・室戸が日本ジオパークネットワークのメンバーに認定されたことを知っていた。
はい10名・いいえ 2名
 - ☆ 1月25日の室戸観光開きで、ガイドによる案内がスタートしたことを知っていた。
はい 8名・いいえ 4名
 - ☆ その他取り組みとして知っていること
〔 ・12/10の会等が開催されたことを新聞を通して知っていた。
・ガイドの養成が始まったこと ・四万十町もGNPに参加したいこと 〕
3. この巡検に参加される前に、ジオパークとは何かを
よく知っていた 2名・少し知っていた 8名・ほとんど知らなかった 2名
4. 上の3については、何によってジオパークの情報を得たか？
新聞 10名・TV 4名・ラジオ 0・広報誌 0・高知地学研究会会報 5名
5. この巡検に参加して、ジオパークのことが
よくわかった 5名・少しわかった 6名・ほとんどわからなかった 0
6. ジオパークのよい所は？（複数回答可）
 - ・自然や文化が保護される 8名・町おこしになる 4名
 - ・産業（経済活動）が盛んになる 1名
 - ・地元のアピールを自分たちでやっていく手作り感がある 7名
 - ・様々な分野の人と交流ができる 5名
 - ・その他（・地学に関心を持ってもらえる。
・世界的に価値のあることなので、大いにアピールすべき ）
7. ガイドさんの説明はどうだったか？
とてもわかりやすかった 5名・こんなものだと思う 4名・もっと工夫が必要だ 1名
8. ガイドさんの説明でよかった点や改善点
〔 ☆ 初々しくてとても感じが良かった。 ・明るく話し、楽しかった。
・回を重ねる度にお話も聞いてみたい。
・動植物についての説明も、もう少しあれば。 3名
・もっと室戸弁でやってほしい。・今後大いに期待したい。
・ジオパークらしさが今後出ればよい。
・声の大きさ・話す早さ・説明時の顔や体の向きは良かったのでは？
☆ 周囲の安全確認に気を配りたい。（道を横切るときなども）
☆ ホワイトボードのようなもので文字を書いて説明しても？
☆ ルートマップを使って説明してはどうか。
☆ ヤッコカンザシの現在の様子などをプレートにして説明に使ってはどうか。 〕

9. ジオパークとして室戸が今後アピールしていったら良い事は

- ・地質に関すること 10 名(具体的に ・うんとアピールしてほしい。
・南海地震との関わり
・室戸のはんれい岩)
- ・文化的なこと(具体的に ・昔話 ・捕鯨に関すること)
- ・開発商品(具体的に ・ピワのお菓子 ・深層水を生かしたもの)
- ・その他()

10. 今後、我々がジオパークを応援していくときに、必要だと思われること(複数回答可)

- ・高知地学研究会などで巡検をしばしば行う 8 名
- ・ビラ・ポスターの作成・ロコミで宣伝していく 1 名
- ・TV・ラジオ等のマスコミに働きかける 6 名
- ・旅行会社に企画を依頼する 4 名
- ・インターネットへの書き込みをする 5 名
- ・ボランティアの育成を支援する 8 名
- ・イベントへの参加をする 3 名
- ・様々な案をジオパーク関係者に提示していく 4 名
- ・その他 (若年者の育成) 1 名

11. その他ジオパークに関する質問や気のついたこと、提案などがあればご記入ください。

- ・遊歩道や案内プレートの設営 4 名
- ・地元の人たちが喜んで楽しんで活動していると、見に来たみんなにも喜びが伝わり、もっと大きな活動につながっていくと思う。
- ・国道に横断歩道の白線を引くべき
- ・岬周辺の別のルートや、また、他の地域なども開発していくと良い。
- ・イベントのあるときには深層水の商品などを売る出前スタンドを置くと良い。

アンケートは以上です。巡検に参加された方の意見として強く感じられたのは、やはり、ジオパークが、地元の人々に支えられ、自らが提案し、アピールし、活動していくことに期待が寄せられているということです。この結果も参考にしながら、次回の巡検に向けて、高知地学研究会としての役割や、今後の活動について話し合っていきたいと思います。どうかよろしくお願いします。

(森岡 美和)

ジオパークの現場から

高知地学研究会 会長

高知県立室戸高等学校 教諭

南 寿 宏

四国ジオパークは、昨年10月、惜しくも世界ジオパークへの申請がなりませんでした。そこで12月、範囲を室戸に限定し、室戸ジオパークとして再発足しました。

室戸ジオパークは、12月に日本ジオパークのメンバーに認証され、世界ジオパーク申請に向け、新たな活動を開始しました。そのひとつとしてボランティアガイドの養成があります。先日、室都市観光協会の主催で観光ガイド研修講座が実施され、講師としていってまいりました。このガイド一期生たちが、1月25日の室戸市観光びらきでガイドデビューしたことは記憶に新しいところです。そして今、ガイド二期生の養成講座が開始されています。

先日、室戸市民への啓発のため、室戸市広報への執筆依頼がありました。広報の紙面の関係で字数制限があり、毎回800字程度にまとめました。そのことを幹事の森岡先生に話すと、『広報の内容を会報に転載せよ』との命令が下りました。そこで、広報原稿に大幅に加筆したものを、載せます。ご覧ください。

なお、34号の曾我君の記事と内容が一部重複していることをご承知ください。

1 ジオパークとは

ジオパークは、地質公園もしくは地質遺産と訳され、主に地質・地形を対象にしたテ-



写真はボランティアガイド第一期生

マパークのことである。対象には、地域の歴史や地理、宗教、文化、民俗学等も含むため、世界遺産の地質版と解されがちである。しかし、世界遺産が保護のみを目的とするために開発が限界されるのに対し、ジオパークは「地質遺産を保全し、地球科学の普及に利用し、さらに地質遺産を観光の対象とするジオツーリズムを通じて地域社会の活性化」を目的とするため、大いに観光・商業開発を行うことができる。

2 世界ジオパーク登録に向けて

ジオパークには、世界ジオパークと日本ジオパークとがある。

世界ジオパークは、2001年にユネスコにおいて設立され、2009年現在、世界18ヶ国57地域が登録されている。日本は未登録であるが、初の登録に向けて、洞爺湖有珠山、糸魚川、山陰海岸、四国（室戸地域）および島原半島の5地域が申請した。これらの申請を受けて、日本ジオパーク委員会は、昨年9月にヒアリング、10月に現地調査を行い、洞爺湖有珠山、糸魚川および島原半島の3地域を本年度の登録申請することを決定した。

申請基準は、規模と環境(27)、運営(20)、経済開発(18)、教育および保護(27)・保全(8)の100点満点で行われた。得点詳細は公表されていないが、9月のヒアリングの時点で3位と4位の得点に有意な差がついていたことが議事録により明らかにされている。

室戸地域が落選した理由を私なりに分析した。

- ・対象地域が『四国』とおおざっぱで、意図するところがしぼりきれていない。
- ・案内板が未設置、ボランティアガイドの養成がされていないなど、準備不足である。
- ・申請時点で、一般人に対する周知、現地ガイドの実績が少ない。
- ・児童・生徒、市民に対する教育・啓蒙活動がなされていない。
- ・市内外に対する啓発・広報活動が不十分である。

室戸ジオパークでは、ジオパークの対象を室戸地域にしぼり、ガイド養成講座を行うなど、今回の申請に向け、具体的な取り組みを始めている。ジオパーク対象地域は、当初は室戸市内となろうが、将来的には、芸西村から東洋町までの旧安芸郡全域を範囲とすべきであろう。

日本ジオパークは昨年12月発足し、世界申請が決まった前述の3地域に加え、室戸も含め全7地域が認められた。7地域とは、次のとおりである。

- ・ 世界ジオパーク申請 (3地域) 洞爺湖有珠山・糸魚川・島原半島
- ・ 世界に申請されず (2地域) 山陰海岸・室戸
- ・ 新たに名乗り (2地域) アポイ岳・南アルプス（中央構造線）

世界ジオパークの申請は日本ジオパークに加盟していることが条件であるが、現在は発足したばかりで、日本に加盟していなくても世界申請ができる。

6月、今年の世界申請が締め切られた。申請したのは次の3地域である。

- ・ 山陰海岸・室戸・秩父市

ここで、予想外の秩父市立候補に注目したい。山陰海岸と室戸は日本ジオパークの加盟地域であり、昨年度も申請していたことから予想どおりであったが、秩父市とは予想外であった。秩父市は秩父帯の模式地であり、すぐそばに長瀨結晶片岩をかかえ、何といっても首都圏に近い。強敵である。

世界ジオパークに申請されるのはこの3地域のうち2地域である。

3 ジオパークの活用

前述のように、ジオパークは保護だけでなく、地質遺産を活用するジオツーリズムをとおして地域発展に貢献することができる（曾我(2008)）。

ジオパークを地域発展に生かす方策として、観光、産業振興、教育への利用等が考えられるので、順に私案を述べる。

(1) ジオパークの観光への活用

観光では、ジオパークを目的に室戸市を訪れる観光客への対策が必要である。「室戸に来ました。室戸の春は何もない春でした。終わり。」これでは、観光地として、失格である。観光客に何を見てもらうか、どういうふうに説明するか。そして、リピーターとなってもらうためには、どういう方策が必要か。

第一に、室戸が日本ジオパークに認定されたことを県内外にアピールし、観光客を誘致する宣伝・営業活動が必要である。第二に、観光客対策である。室戸に来ていただいた観光客にどう接するか、また、どんな内容の案内・説明をするかが大事である。第三に、積極的に現場に足を運んで新しい見学ポイントを発見し、説明内容を考えるという、取材活動である。説明内容が年々充実することにより、一度来てくれた人が、もう一度足を運んでくれるであろう。

第一の宣伝・営業活動としてまず考えられるのは、インターネットの利用である。室戸ジオパークのホームページを立ち上げて、情報発信を行う。この点では、香南市の活動が参考になる。また、JR各社や土佐くろしお鉄道などの交通機関、JTBなどの旅行業者、NHKや高知新聞などの報道各社、タウン情報誌、県や市町村教育委員会などの教育関係者など、室戸ジオパークのことを知ってもらいたい数多くの組織、機関に対する営業活動が必要である。

第二の観光客対策であるが、キラメッセやとろむ、バーデハウス改めシレストむろと等の観光施設やレストラン、宿泊所、コンビニやガソリンスタンド等では簡単なパンフレットを常備・配布し、観光客が計画を立てる手助けをする。また、市役所や観光協会の人はもちろん、民宿の女将さんやタクシーの運転手さんなど、観光客に関わるあらゆる人がガイドができれば、理想的である。

ジオパークのポイントには、理解を深めるための詳しい案内板を設置する。この案内板は、複数の言語、日本語・英語・中国語等で記述する。観光シーズンや日祝日等には、ポイント地点にボランティアガイドが立ち、説明を行う（龍河洞方式）。希望者には、現地の巡回ガイドを実施する（高知城方式）。弘法大師関連のポイント（御蔵洞、行水の池、新村不動等）では、特にお遍路さんを対象にした案内を行う。遠足や修学旅行客にはバスに添乗してのガイドも実施したいし、理科の学習会や野外観察会も定期的に行いたい。

第三の新ポイントの開拓であるが、当初の案内コースは、室戸岬や新村海岸など、限られた数カ所程度となるだろうから、毎年新しいコース・ポイントを作り、説明内容を充実する。この努力を続けていくことで、リピーターを獲得する。

やるべきことは多いが、その中でも急がれるのは、ボランティアガイドの養成である。初

年度の世界ジオパーク申請が決まった島原半島では、座学3回、野外巡検4回の学習会が計画されている。とはいえ、室戸が今から半年も1年もかけてガイドを養成するには、時間が足りない。我々としては、ガイド説明用のテキストを作成してそれを基に実習を行うことで、ともかくもガイドを現場に送り出す。最初は、原稿の棒読みになるかもしれないが、経験を積むことで、ガイド技術は上達する。そして、現場でのガイドと並行して室内研修会を行い、基礎事項の習得と説明力の向上を図っていこう。

(2) ジオパークの産業振興への活用

室戸観光の目玉といえばやはり、四国88ヵ所と海洋深層水である。そこで、ジオパークを、これら2つの目玉とドッキングしてみよう。

室戸岬の東に、御蔵洞という空海修行の地がある。この洞窟の近くにある空海行水の池（本当に空海が行水したかは疑問だが）を水と親しむ場所にできないものか。現在は、水が汚く、入れたものではないが、水を抜いて清掃し、ポンプできれいな海水を汲み上げ、流すことで、簡易プールとなる。流水に海洋深層水が使用できれば、もう安くない金を払ってシレストに入る必要はない（池内支配人さん、御免なさい）。水質の問題や、国定公園であることによる規制など、クリアすべきことが多いだろうが、何とか実現できないものか。

また、この近くに鉄道の室戸岬駅を開業させたい。現在、鉄道は奈半利駅および甲浦駅止まりである。観光客は、列車・バス乗り換えを嫌う。高知発室戸岬行き、徳島発室戸岬行き、将来は東京発直通特急列車があれば、観光客は一気に倍増するだろう。新駅は、奈半利からは加領郷、羽根、吉良川、元、室戸そして高岡ディープシーワールドである。甲浦からは、野根、佐喜浜、椎名を通り、室戸で合流する。

余談であるが、本来、阿佐線は、田野町からまっすぐ東に向かい、奈半利町の北を通過して室戸に直行する予定だった。ところが、室戸延伸が中止されたために、終点奈半利の便を考えて線路を右に曲げ、駅を町中心に設置したという。今の駅の先には人家が密集し、役場、郵便局、小学校等もあり、とても延長できない。

夢物語はこれぐらいにして、実現できることを考えてみよう。

まず、室戸ならではの海の幸、山の幸を生かした商品開発がある。海洋深層水入りのジオパーク塩饅頭、黒砂糖がザラザラの黒餡入りホルンフェルスアンパン、付加体メランジュ煎餅、砂泥互層無神経鯖パイなど、いかがでしょうか。西山台地の金時入りのマグマケーキ、藍染の枕状溶岩型枕（ただの枕やないか！）など、いくらでも出てくるのである。ジオパークのマスコットはもちろん、「くうかいくん」。モデルを募集します！



室戸ジオパーク支援グッズ“GO-CHISO”ブランドができました。（販売中）

これらの商品を大都市で発売したりせず、室戸限定とすれば、希少価値が生じ、それらを目当てにやってくるお客さんもある。

次に、宿泊だが、旅館やホテル、民宿、自然の家等が客を取り合うことなく、共存共栄の方向に進んでもらいたい。セレブの方はウトコディープシーセラピー、旅費を安くあげたい人は青少年自然の家、室戸の味を堪能したい人は旅館、ゆっくり癒されたい人は民宿と、それぞれの宿泊先の特色を生かした住み分けは可能である。各業者さんが協力することで、共通オプションが設定できる。自然の家のバスが各宿舎を回り、とろむやシレスト、あるいは自然の家の各種行事に参加できるようにするのである。

室戸市内にいるとなかなか気がつかないが、室戸の知名度は四万十と並び、高知県一だと思う。せっかくの知名度を最大限に生かし、産業振興に役立てたいものである。

(3) ジオパークの教育への活用

室戸市内の小中学校は、大半が近くにジオパークの観察ポイントがあり、比較的容易に現場に行って授業を行うことができる。これはとても大きい利点である。この利点を生かし、ジオパークを授業に積極的に利用することで、子どもたちの理科教育をより充実したものにすることができる。

実際の活用方法としては、次のことが考えられる。

①理科の授業としての利用（詳細は後述）

児童・生徒がジオパーク現場で学習する。ジオパーク指導員が直接児童・生徒を指導する方法と、小中学校教員を対象に現場研修会を実施し、研修を受けた小中学校教員が児童・生徒を現場に引率・指導する方法とがある。

②部活動として

科学クラブが室戸の自然について研究を行い、成果をまとめ、発表する。ジオパーク指導員は、必要に応じて部員に資料を提供し、研究の手伝いをする。

③自由研究・課題研究としての利用

児童・生徒がジオパーク活動に自主的に参加し、成果をまとめる。

④インターンシップとして

児童・生徒がボランティアガイドとして、観光客相手に説明する。

⑤その他

学校行事（遠足、修学旅行等）として利用する。写生を行い、図画・美術の授業とする。ボランティアで浜辺の清掃活動を行う。

理科教育について、平成 20 年（2008 年）3 月に公布された小中学校の新学習指導要領の地質分野について説明する。

新学習指導要領の目標として新たに、「自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り（小学校）」、「自然の事物・現象に進んでかかわり（中学校）」という文言が加わり、児童・生徒の自然の事物・現象への主体的・積極的なかかわりが強調されている（下線は筆者）。ジオパークはこの自然の事物そのものであり、教科活動、教科外活動ともに、積極的

に利用したい。



ヤッコカンザシ（写真左は現生のもので、右は化石）

各学年の地質学的教育内容は次のとおりである。

小学校5年生「流水のはたらき」

地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるようにする。

小学校6年生「土地のつくりと変化」

土地やその中に含まれる物を観察し、土地のつくりや土地のでき方を調べ、土地のつくりと変化についての考えをもつことができるようにする。

中学校1年生「地層の重なりと過去の様子」

野外観察などを行い、観察記録を基に、地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定すること。

これを見ると、教育内容はジオパークで十分カバーできることが分かる。児童・生徒がジオパーク現場で調査研究することで、自然の事物・現象に進んでかかわり、実感を伴った理解ができ、科学的な見方や考え方を養うことができる。この学習を経験した子どもたちが将来の室戸を担う人材として巣立っていったほしいものである。

なお、授業に際しては、教材研究を行い、学習指導案を作っていく必要がある。このことについては、ジオパーク指導員と小中学校の先生方とが共同研究を行うことが望ましいと思うので、その際には、できる限りのことをさせていただくつもりである。

最後に、室戸高等学校全日制総合学科では、学校設定科目として「ジオパーク学」を予定している。今、その準備に取りかかっているところであるが、これがなかなかの難問である。全日の授業を定時の教員が組み立てるのだから、勝手が分からず、五里霧中の状態である。

引用文献

曾我 和正 (2008) : ジオパークについて ; 高知地学研究会会報, No.34 ; p.6-11

参考 HP

<http://kounankankou.blog119.fc2.com/>

<http://www.city.shimabara.lg.jp/section/shokan/geopark/infomation/guide.html>



地図中の青線は、夢の室戸鉄道



今世紀最大の天体イベント「日食」(2009.7.22)も、高知県は曇りがちで、雲の切れ間からちらほらという感じでございましたが、皆様いかがだったでしょう。早めにチケットを購入して、沖縄の島や船上でごらんになった方もいらっしゃるやも知れませんが、「私は見たよ!」「写真に収めた!」という方は、是非会報に原稿をお入れ下さい。

いよいよ、夏は本格的になって参りました。巡検は暑さ寒さを吹っ飛ばし、体力の限り実行しておりますが、今回ご案内申し上げました夏休みイベントは、クーラーの効いたところで静かに地学を楽しめる内容ですので、普段参加できないと思っている方もどうぞご参加下さい!

- 誠に申し訳ないことですが、前回の会報に誤植がございました。総会でも訂正させていただきましたが、以下の2点をご確認いただけますよう、よろしくお願いいたします。

p.10 l.11 (誤) 黒くて壁開が発達していてキラキラ光るのが斜長石です。

→(正) 黒くて劈開が発達していてキラキラ光るのが輝石です。

p.10 l. 19 (誤) 1200yrs G P →(正) 1200yrs B P

- 次回の会報では、いよいよ第2弾室戸巡検(10月)のご案内をさせていただく予定です。
- 本会会員の皆さまに投稿のご協力をお願いします。総会・講演会・巡検等に参加なさった会員さんは、是非、学習成果やご感想をお寄せください。
- 本号は、20年度会員の方に送らせていただきます。

総会後会費をお振り込みいただいた方には領収書を同封しています。ご確認ください。

☆ ただいま、平成21年度会員の申し込みを受け付けています。会費を郵便局でお振り込みください。

前回同封いたしました払込取扱票(青色)をご利用ください。通信欄に何年度分なのかをご記入願います。

口座番号 01660-8-28804		加入者名 高知地学研究会	
賛助会員一口5,000円	正会員2,000円	大学生院生会員1,000円	
中学高校生会員800円	小学生会員500円	家族会員3,000円	

平成21年7月24日現在会員数

賛助会員	正会員	大学生院生会員	中高生会員	小学生会員	家族会員	名誉会員	合計
0	34	0	0	0	12	3	49

発行:高知地学研究会

(南 寿宏・森岡美和)